

平成26年度
事業報告書

平成27年5月28日
学校法人 大阪歯科大学

平成26年度 事業報告書

はじめに

大阪歯科大学の建学の精神は、「歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する奉仕的人生観を体得して、「博愛」と「公益」に努める。」というものである。

平成26年度は、従来からの磐石な体制を踏まえ、教育、研究、診療、管理運営に関する諸改革を推進した。

学部において三つの入学試験制度を創設した。すなわち一般入試における成績上位者への授業料減免、大学入試センター試験の導入、東京会場の新設である。この結果、受験生の増加により実質の入試倍率が2.95倍にまで上昇した。また、新カリキュラム導入3年目であり、前年度に引き続き成績判定の厳格化を行い、学修指導の徹底を図った。歯科医師国家試験については、第6学年への徹底した教育指導により、現役受験生の合格率は良好な成績を上げた。

大学院については、海外提携校からの外国人院生の受け入れを実施するとともに、修士課程の設置と募集開始の最終段階を迎えた。

国際交流については、四川大学華西口腔医学院主催サマーキャンプ、上海交通大学口腔医学院、オーストラリア・シドニー大学歯学部への本学学生による短期海外研修を行った。さらに、コロンビア大学歯学部、上海交通大学、南方医科大学口腔医学院、台北医学大学口腔医学院、シドニー大学学生の研修訪問受け入れを行った。

附属病院については、土曜日開院が2年目を迎え今後の収入改善へ向けてのさらなる検討が望まれる。

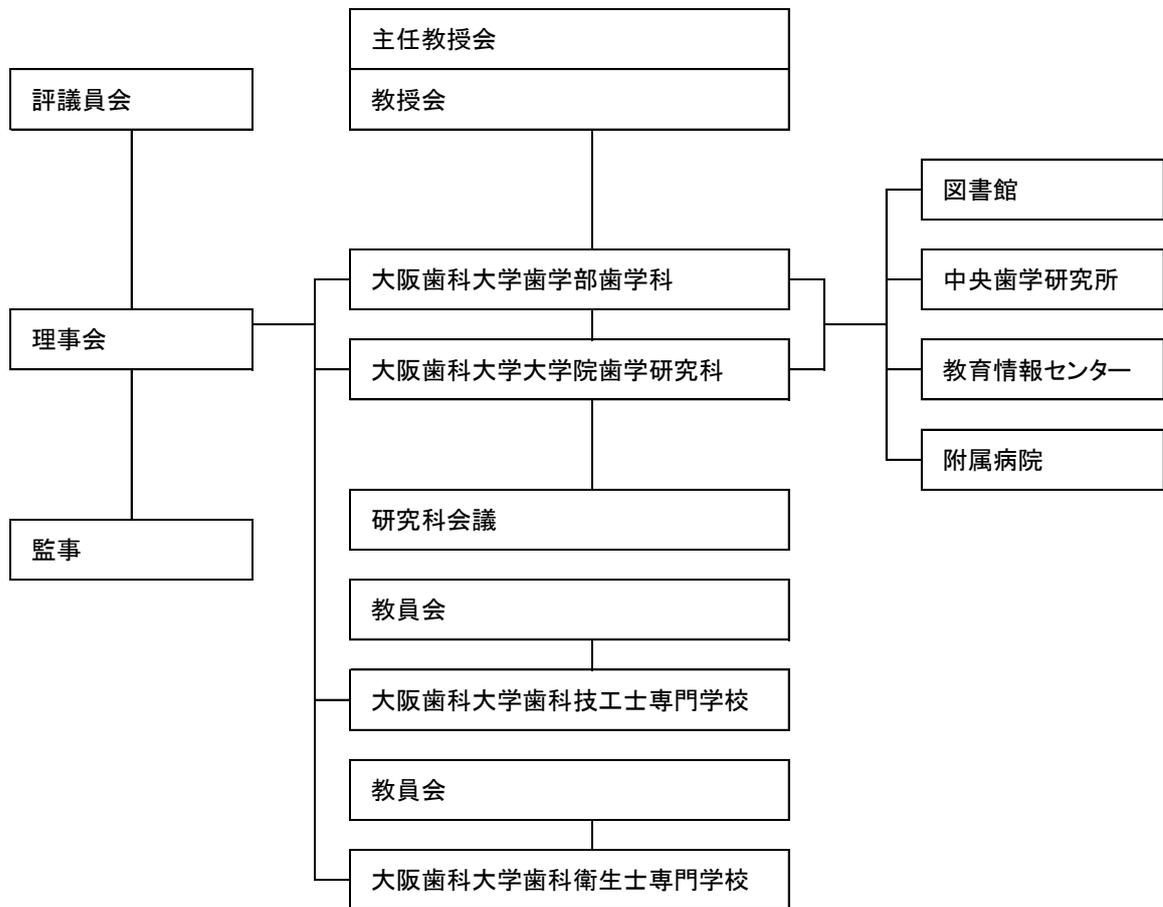
歯科技工士・歯科衛生士両専門学校については、半世紀の歴史と実績のうえで新たな改革への取り組みが進行中である。

平成26年度は、本学にとって2回目となる大学基準協会の認証評価を受審し、学内各部署の全面的な努力により平成27年3月に大学基準に適合すると認定を受領した。さらに、文部科学省大学改革推進事業である歯学教育認証評価制度創設に係るトライアル校に選定され、この二つの認証評価活動を通じ、国際的に通用する内部質保証の充実を図った。

平成26年度は、本学の重点目標である「五つの力の目標」（募集ブランド力の向上、学力の向上、教育力の向上、人間性涵養力への注力、教員人材育成力への注力）及び「三つの力の追加目標」（学生の国際交流力増強、大学院力の増強、研究力の向上）の本学の「八策」の達成に向け大いに前進した年度であった。

学校法人大阪歯科大学は、大学歯学部、大学院歯学研究科、歯科技工士専門学校、歯科衛生士専門学校を擁する歯科医学総合学園として、今後も「八策」達成に向けてさらなる発展充実を図っていくものである。

学校法人大阪歯科大学組織図



大阪歯科大学は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針に則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、歯科医師として必要な知的道徳的及び応用的能力を展開させることを目的としている。

大阪歯科大学大学院歯学研究科は、大学院生に歯学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与するとともに、大学院生を当該専攻分野に関する高度の研究指導者に養成することを目的としている。

大阪歯科大学歯科技工士専門学校は、歯科技工士として必要な知識と技術を修得せしめるとともに、更に高度な技術の向上を図ることを目的としている。

大阪歯科大学歯科衛生士専門学校は、歯科衛生士として必要な知識と技術を修得せしめるとともに教養の向上を図ることを目的としている。

本学の沿革

- 1911年（明治44年）12月 大阪歯科医学校 創設
- 1912年（明治45年）1月 大阪歯科医学校 開校（14日創立記念日）
- 1913年（大正2年）10月 附属医院 開設
- 1915年（大正4年）7月 大阪市南区木津大国町（現浪速区敷津西）に移転
昼間部2年制の本科設置
- 1916年（大正5年）7月 大阪市東成郡生野村（現生野区勝山南）に移転
- 1917年（大正6年）9月 大阪歯科医学専門学校 設立
- 1919年（大正8年）1月 附属医院 開設
- 1929年（昭和4年）7月 牧野学舎 竣工
- 1935年（昭和10年）10月 天満橋附属医院 竣工
- 1939年（昭和14年）1月 大阪歯科技工学校を吸収
- 1947年（昭和22年）6月 大阪歯科大学（旧制）へ昇格（18日昇格記念日）
- 1947年（昭和22年）8月 大阪歯科大学（旧制）の予科設立
- 1949年（昭和24年）4月 大阪歯科大学（旧制）歯学部開設
- 1951年（昭和26年）3月 学校法人大阪歯科大学へ組織変更
- 1952年（昭和27年）4月 大阪歯科大学（新制）歯学部 設置認可
- 1955年（昭和30年）4月 大阪歯科大学（新制）進学課程設置
- 1961年（昭和36年）4月 大学院歯学研究科（博士課程）設置
- 1964年（昭和39年）4月 附属歯科技工士養成所開設
（現大阪歯科大学歯科技工士専門学校）
- 1968年（昭和43年）5月 附属歯科衛生士学校設置
（現大阪歯科大学歯科衛生士専門学校）
- 1997年（平成9年）4月 楠葉新学舎へ移転・天満橋学舎附属病院新築
牧野学舎と合わせ3キャンパス体制となる。
- 2001年（平成13年）6月 大阪歯科大学創立90周年記念式典挙行
- 2011年（平成23年）11月 創立100周年記念式典 挙行
- 2013年（平成25年）3月 創立100周年記念館 竣工

平成26年度事業報告

平成26年度の本学事業について、項目ごとにその概要を記載する。

I. 教学（学部教育）の改革

II. 大学院の改革

III. 教員人材の整備等

IV. 附属病院の財務改革

V. 歯科技工士・歯科衛生士両専門学校の改革

I. 教学（学部教育）の改革

1. 歯学部入試倍率の増加への取り組み

オープンキャンパスは、6月、7月、8月、11月の計4回開催され、延べ参加人数は、412名（うち、学生195名）であり、過去最高の参加者となった。当日のプログラムは、入試概要説明、在学生による学生生活の説明、学内食堂利用体験、学内施設見学、実習体験、個別相談会を実施した。

また、8月には初めての試みとして、本学附属病院にて個別受験相談会と病院見学会を実施し好評であった。

本学教員による指定校への高校訪問、大学祭期間中の入試相談会、高校生向け進学ガイダンス「夢ナビライブ」での出前講義などで入試広報に努めた。

平成27年実施の入学試験（平成27年度入学試験）は、三つの新制度を導入した。

まず、学費に関するもので、一般入試受験者のうち、成績上位者25名について、入学初年度の授業料等を全額（515万円）免除する制度である。

次に、大学入試センター試験利用入試制度である。これは、前期（1月）と後期（3月）に実施するものである。（一般入試前期・後期と併願が可能である。）

さらに、受験機会の複数化として、一般入試（前期日程）において、東京会場（東京都品川区TOCビル）の新設である。

これらの取り組みの結果、募集人員128名に対する実質競争倍率は、2倍を超え（2.95倍）、平成27年度新入生128名を過不足なく確保した。

平成23年度から開始した編入学試験は、27年度は9名が第2学年へ編入することとなった。

2. 第108回歯科医師国家試験結果

新卒者は93名受験し、合格者は72名で合格率は77.4%であり、前回第107回より1.9ポイント上昇した。新卒者の私立歯科大学・歯学部合格率は、69.1%で、8.3ポイント上回った。(国公私立を含む合格率は73%で、本学はこれより4.4ポイント上回った。)

今回の結果は、私立の中で5本の指に入る成績であり、第6学年に対するきめ細かい教育指導の表れである。

教育アドバイザー、特別アドバイザー及び助言教員、ティーチング・アシスタント(TA)により学生の状況を的確に把握して、データに基づく徹底した個人指導により、学生のモチベーションを高めた結果である。このような地道な取り組みを一層推進していくものである。

3. 新カリキュラムの進行と検証

1) 大学学則改正及び学業成績評価に関する規程の制定

平成24年度第1学年から新カリキュラムが進行し、学年進行は、3学年分が新カリキュラムとなった。これについては、次の11のコースを基本構成として教育を行った。

- ①態度教育、②教養教育、③語学・情報科学教育、④基礎科学教育、
- ⑤基礎系歯科医学教育、⑥社会系歯科医学教育、⑦臨床系歯科医学教育、
- ⑧総合医学系教育、⑨第1～4学年歯科医学統合教育、⑩歯科臨床教育、
- ⑪歯科医学統括教育

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、学修が行われている。

卒業の認定・学位の授与の要件は厳格であり、

- (1)総括講義の出席条件を満たす者(受講しなければならない講義数の80%以上出席を要件)
- (2)本学が指定する3回の特別試験すべての受験者
- (3)学士試験2の合格者
- (4)本学に6年以上在学して254単位を修得、学士試験に合格し、2月に開催する報告会(歯科医師国家試験に関して本学で開催する報告会)に出席して歯科医師国家試験の自己解答を提出した者となっている。

平成26年度の大学基準協会認証評価において、大学学則等の関係規程の中に、新カリキュラムに対応した教育課程や卒業要件単位数が規定されていないとの指摘を受け、即時改正に着手し、平成27年4月1日付け改正を文部科学省へ届け出た。

また、平成27年3月、「大阪歯科大学学業成績評価に関する規程」を制定し

た。この規程中の内容は、従来から各学年のシラバスに年間の授業日程、各教科科目の内容、教科書、参考図書、講義担当者、到達目標、行動目標、成績評価方法、試験の日程として記載し、学生に周知しているもので、学生の日々の自学自修の重要な手引きとなっている。

このように、新カリキュラムの進行とともに、このたびの認証評価に関する自己点検・評価活動を通じて、是正すべきことは速やかに見直しを行う内部質保証体制を積極的に推進していくものである。

2) 新カリキュラム（第1学年～第3学年）について

第1学年における初年次教育としては、推薦入試合格者には入学式までの間にスクーリングを2回実施した。また、新入生全員に基礎学力試験（英語、数学、物理学、化学、生物学）の受験と、9月の前期試験で特に学習が必要な科目のある学生には補習授業（英語、理科、数学）を行った。第2学年への編入学試験合格者には、入念な入学前教育を行うことにより、歯学部以外の出身者や社会人の学習意欲の向上を図った。

さらに、新入生全員に歯科医師という職業への動機づけを図るため、アーリーエクスポージャーとして本学附属病院における早期臨床体験学習と、夏休み前に障がい者施設・介護施設において社会福祉体験学習を実施した。

ヒューマニティーズ教育の科目としては、必修科目としてすでに平成18年度から人権論を開講し患者さんへの思いやりのある歯科医療人の育成を図った。

第2学年では、第3学年以降の学修に必要な基礎系歯科医学科目及び歯科英語を配置し、全国共用試験歯学系受験時までに必要な態度・コミュニケーション能力を修得することを目標とした教育を行った。

第3学年では、態度教育として研究室体験としてのゼミナールを開講し、教室・講座に関連する歯科医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容について説明できることを目標に、学生に対してレポートを課して理解度の指標とした。

研究意欲のある学生に対してゼミナールの中で「研究チャレンジ」を創設するべく検討を行った。学部学生の時期から研究心を育成していくことは、近年、文部科学省が推奨している事項であり、平成27年度から開始することを決定した。

4. 第4学年の教育

—全国共用試験歯学系CBT、OSCEへの対応を中心に—

本学では、第4学年末に実施されるCBTは、第5学年次の臨床実習に入る前の段階で受験する第1次国家試験と位置づけている。これは、歯科医師国家試験受験の学力を担保する極めて重要な関門である。

平成25年度から合格基準を改正し、70%以上合格と厳格化した。それと

ともに従来からの指導体制（教務部長、指導教授、教育アドバイザー及び助言教員）による徹底した個別指導と模擬試験などで成績は向上している。

また、OSCEについては、従来から本試験1回のみでの施行であり、このことは、本学学生の客観的臨床能力のレベルの高さを示しているといえる。

5. 第5学年・第6学年の教育

第5学年における臨床実習の成績評価の厳格化（臨床実習修了時試験）、年間5回にわたる進級試験（75点以上合格）などにより学力は向上している。

第6学年に第6学年教務部委員会を設置しており、学士試験1・2を課すとともに、大学指定の模擬試験の成績の分析、教育アドバイザーによる少人数クラスでの指導、特別アドバイザー、大学院生のTAの指導による学習成果を適切に測定し、歯科医師国家試験に備えた。この結果、第108回の歯科医師国家試験では新卒者で良好な成績を収めることができた。今後ともこの体制を充実し、一層の好成績に繋げていくものである。なお、既卒者に対しては既卒者教務部委員会が個別指導を行った。

6. ODUソーシャルコミュニティについて

枚方市の環境美化活動に関するボランティア事業（アダプトプログラム）に参加することを検討し、平成27年度から楠葉学舎に学ぶ第1学年から第4学年の学生により、早朝の学舎周辺の歩道等を清掃活動で美化する活動を実施することを決定した。これは、本学が重視する態度教育の一環として「ODUソーシャルプログラム」と命名した。平成26年度は、学生・教職員有志にトライアルを行った。

7. 学生生活指導

昨年度同様に「学生生活ハンドブック」により、学生生活を送る上で必要な情報を全学生に配付した。各学年に学年指導教授、助言教員、特別アドバイザーを配置し、歯科医学教育開発室に配置された専任教員を教育アドバイザーとして修学支援を行った。

「薬物乱用防止講演会」については、9月に大阪府警察本部と枚方警察署から講師を招いて、第1学年を対象に開催され、全員が参加し、学生生活を安全に過ごすための知識を学んだ。

「女性被害防止講演会」については、10月に大阪府警察本部と枚方警察署から講師を招き、第1学年女子学生59名（在籍者67名）が参加し、自ら身を守るための知識を学んだ。

II. 大学院の改革

1. 大学院生の入学倍増計画、外国人留学、大学院教員の増強等

平成27年度入試においては、24名（外国人留学生2名を含む）が合格し、前年度（17名）より増加した。

学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）としては、①口腔科学に探求心をもつ人、②高い倫理観とコミュニケーション能力を備えている人、③幅広い視野をもち、創造性とチャレンジ精神に富む人、④自ら問題を発見し、解決する力を備えている人、⑤国際的視野と語学力を身に付け、国際貢献を目指す人、の5項目を掲げて院生の募集を行った。

新設専攻科として障害者歯科学を置くことを決定し、大学院准教授、大学院助教により指導体制を整備した。外国人留学生については引き続き受け入れ態勢を充実させていくものである。

平成26年度大学基準協会認証評価の結果、学位申請論文の作成を指導した教授が論文の主査を務めている現状を改善するように努力課題として指摘があったので、さっそく学位規程改正を検討した。

大学院修士課程については、平成28年4月設置に向けて文部科学省へ申請する最終段階に入った。

III. 教員人材の整備、国際交流、学生の活躍、外部資金獲得等

1. 教員評価について

教員の業績評価については、教育活動、研究活動、臨床活動及び学内・社会活動の4項目を数値化し、評価結果は、講座・教室ごとの研究費の傾斜配分等に活用した。これは、前掲の「八策」の一つである「教員人材育成力への注力」として整備を進めてきたものである。教員の資質向上については、FD委員会が企画立案と実施主体で、開催項目については下記のとおりである。

回数	開催日	テーマ	講師	参加人数
第1回	4月28日(木)	歯学系C B T問題公募要領と問題作成のポイント	田中 昭男教授 西川 泰央教授	54名
第2回	8月11日(月)	アクティブラーニングを再考する -学生の思考をアクティブにするためには-	森 朋子准教授 (関西大学)	109名
第3回	10月30日(木)	ポータブル活用から始めるアクティブ・ラーニング -「医療倫理」の実践例から-	青野 透教授 (金沢大学)	91名
第4回	11月7日(金)	低学力支援とメンタルケア ~学生をやる気にさせる学習支援~	仁枝 幹太理事 (特非)キズキ	101名
第5回	平成27年 1月26日(月)	反転授業と学習評価 ~ラーニング・アウトカムズの視点からの授業設計~	杉森公一准教授 (金沢大学)	112名

なお、今回は第1回目を除き、続く4回は、上記の4名の外部講師により行われた。

2. 教職員の人権研修等

平成27年3月、教職員の人権意識を高めるため人権講演会を行った。今回は、「職場のハラスメント問題の動向」と題して、本学人権教育室の李 嘉永講師から、多様化するハラスメントの現状と対応について詳細な解説が行われた。

なお、大学設置基準の改正で義務化されたFD（ファカルティ・ディベロップメント）、SD（スタッフ・ディベロップメント）に関する事項を大学学則中に新たに規定した。

3. 国際交流

国際交流活動の目的は、グローバル化に対応し、諸外国の大学等との相互教育、研究の充実と発展を図るものであり、同時に教員の資質向上、学生の国際的視野の育成にある。本年は、下記の日程で活発に実施され、平成26年度大学基準協会認証評価においても高く評価された。

平成26年度の学生短期海外研修としては、6月から7月にかけて四川大学華西口腔医学院主催のサマーキャンプに第5学年2名が参加した。さらに7月2名の本学学生が上海交通大学口腔医学院を訪問、臨床実習に参加した。

8月にはシドニー大学歯学部6名の学生が訪問、3月にはコロンビア大学歯学部第5学年8名を派遣し、特別講義や臨床見学、同大学生とのディスカッションなどを行い知見を深めた。

一方、協定校からは、4月にコロンビア大学歯学部から2名、7月に上海交通大学口腔医学院5名、南方医科大学口腔医学院5名、台北医学大学口腔医学院4名、11月にシドニー大学歯学部4名の学生の訪問を受け入れ、特別講義、本学卒業生の歯科医院見学などが行われた。

4. 学生の活躍と地域との交流

1) 本学学生の活躍

本学は従来から学部学生、大学院生の研究意欲の向上に力を注いでいるが、その活躍が輝いた年であった。

7月に、欠損歯列補綴咬合学講座の大学院生と口腔外科学第二講座講師（非常勤）が第27回日本顎関節学会学術大会ポスター発表優秀賞を受賞した。

8月には、スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRIP）日本代表選抜大会が行われ、第5学年のグループが臨床部門第2位に輝いた。

また、本学は、学生のスポーツ振興にも力を注いでいる。

第46回全日本歯科学学生総合体育大会では、本学体育会各部の活躍により総合で第3位を収め、部門別ではボウリング部、空手道部、アーチェリー部、漕艇部が優勝した。ラグビー部は第47回全日本歯科学学生総合体育大会冬期部門で準優勝し、2014関西大学ラグビー7'sリーグで優勝した。

2) 地域との交流

・第22回大阪歯科大学公開講座

地域社会に対して本学の保有している研究に関する紹介と歯学に対する教養の普及を図る公開講座は、本年度のメインテーマを「超高齢社会への歯科の取り組み」と題して、多数の受講者に恵まれ好評であった。

サブテーマ	講 師	天満橋講座 受講者数	枚方講座 受講者数
大規模災害における口腔ケアの重要性-南海トラフ大地震に備える-	神戸常盤大学短期大学部 口腔保健学科 足立了平教授	182名	225名
信頼できる「かかりつけ歯科医」とともに	本学高齢者歯科学講座 高橋一也准教授	183名	216名

・学園都市ひらかた推進協議会等の枚方市との連携事業への参画

平成26年5月、本学主管で枚方市長と枚方市に所在する6大学（関西医科大学、関西外国語大学、摂南大学薬学部、大阪工業大学、大阪国際大学、大阪歯科大学）との標記協議会が開催され、大学と市民、企業等との交流や連携の機会の拡大について推進していくことが確認された。

協議会主催の事業として、「子ども大学探検隊」が11月の本学大学祭の開催と同時に行われ、「歯の模型を作ろう！1日歯医者さん体験！」として本学学生ボランティアも参加し枚方市の小学生39名が実際に歯の模型実習を体験した。

同じ11月に「ひらかた市民大学2014」として、本学高齢者歯科学講座の高橋一也准教授により、『お口は元気の源です！』～介護予防のためのマネジメント』と題する講演が行われ、48名が参加した。

協議会事業とは別に、6月には牧野学舎において、枚方市牧野5校区（殿二、牧野、招堤、西牧野、平野）の地域の方々の自主防災訓練が行われた。牧野学舎は、災害時の第一次避難所に指定されており、これまでも台風接近時には一部住民の方が避難されている。なお、学舎には防災備品や発電機も設置されている。

その他、関西医科大学、摂南大学薬学部・看護学部、本学など医学系、医療系機関と枚方市で構成される「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」にも参画している。

3) 外部資金の獲得による教育・研究活動の振興

○平成26年度私立大学等経常費補助金

本学への日本私立学校振興・共済事業団からの交付額は、3億5213万9千円であり、そのうち特別補助は3029万4千円で前年度比203万1千円の増額であった。

特別補助の内訳は以下のとおりである。

- ・大学等の国際交流の基盤整備（海外派遣、大学院入試等）
- ・大学院等の機能の高度化
大学院における研究の充実（女性研究者支援）
研究施設運営支援（中央歯学研究所）
- ・授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実
卓越した学生に対する授業料減免等（特待生制度）
学生の経済的支援体制等の充実（共済会奨学金）

○平成25年度私立大学等研究設備整備費等補助金（私立大学等研究設備等整備費）

26年度に補助申請したもので、文部科学省からの交付額は1584万8千円であった。

事業名：BDFACSVerse フローサイトメーター3レーザー8カラーモデル一式

○平成26年度学術研究振興資金

日本私立学校振興共済事業団からの交付額は100万円であった。

研究課題：iPS細胞を用いた広域顎口腔組織欠損再生に向けた基礎的研究

○平成26年度科学研究費補助金（文部科学省）

- | | | | |
|-------------|-----|------|---------------------------------------|
| ・基盤研究（B） | 1件 | | |
| ・基盤研究（C） | 38件 | | |
| ・挑戦的萌芽研究 | 1件 | | |
| ・若手研究（B） | 14件 | | |
| ・研究活動スタート支援 | 2件 | | |
| ・特別研究員奨励費 | 1件 | 計57件 | 補助金交付額7130万円
(間接経費2139万円 合計9269万円) |

4) 教育環境の整備

現在の本学の校地面積は、大学設置基準に定める面積の約10倍を保有している。その中であって学生が学習に集中できる環境の整備に努め、第4学年用の自習室を整備することを決めた。また、図書館は必要な質・量の図書学術雑

誌、電子媒体を整えている。『大学ランキング2016』（週刊朝日大学ムック）において、本学の学生一人当たりの図書貸出冊数は10.5冊で、私立歯科大学・歯学部の中でAランクに位置している。

5) 臨床研究における規程整備

臨床研究において新たに「学校法人大阪歯科大学臨床研究利益相反ポリシー」と「学校法人大阪歯科大学臨床研究利益相反管理規程」を整備した。

また、本学の医の倫理委員会に関する事項について、学内規程、倫理指針、議事要旨、臨床研究の情報などをホームページに掲載、公開することとなった。

6) 本学におけるガバナンス改革について

学校教育法の改正に伴い、本学においても早急に学内諸規程の改正に取り組み「大阪歯科大学学則」及び「大阪歯科大学教授会・主任教授会規程」について改正作業を進めた。

7) 情報公開の推進

従来から、本学では情報公開を進めているが、受験生及び保護者からの目線でさまざまな内容を得ることができるよう工夫を行っている。

公開が義務づけられている研究情報についても容易に閲覧が可能となっており、さらに財務状況については各年度の収支状況を見ることができる。

平成26年度事業として、大学ホームページのリニューアル作業を進め、スマートフォンからも本学の最新情報にアクセスできる環境を整備した。

8) 認証評価への取り組み

・大学基準協会認証評価及び歯学教育認証評価トライアルについて

本学は、大学基準協会に昭和52年に会員となり、平成10年度に相互評価の認定をはじめとして、平成19年度に認証評価を受け「大学基準」に適合しているとの評価を得た。そして今回、平成26年度に3回目となる認証評価を受審、全学的な協力のもと、自己点検・評価活動を展開した結果、平成27年3月に無事「大学基準」に適合しているとの認定を受けた。

その中では、本学の建学の精神である「博愛公益」を最も体現する「社会連携・社会貢献」で本学独自の公開講座の充実度や、国際交流を含む学術交流の継続とその発展が高い評価を受けた。

一方、大学学則に新カリキュラムに対応した教育課程や卒業要件単位数が規定されていないとの指摘事項（改善勧告）については、平成26年度中に改正を届け出た。さらに他の指摘事項（努力課題）についても、今後改善報告書を大学基準協会へ提出することとなるが、内部質保証の観点から、自己点検・評

価活動は毎年度継続して実施していかなければならない。

また、大学基準協会の機関別認証評価とは別に、分野別認証評価として文部科学省の「医学・歯学教育認証評価制度等の実施」事業において、本学が連携大学としてトライアル校に選ばれ、平成26年に自己点検・評価書を作成し主幹大学の東京医科歯科大学へ提出した。これを受けて平成26年10月に現地調査を受け、その結果は概ね良好であった。

今回の二つの認証評価受審を契機に、継続的な自己点検・評価活動により、建学の精神である「博愛公益」を本学の理念として、一層の教育、研究、診療、管理運営の発展充実を期するものである。

IV. 附属病院の財務改革等

1. 平成26年度延べ患者数等

医療収入については、附属病院・専門学校経営改善委員会にてデータ分析を行い、改善への方向性を示し、過去3年間の収入の平均を基準として8%増収を目標額とした。病院運営委員会において目標達成状況を報告し、医療保険請求漏れ防止や歯科疾患管理料の算定等に努めた。医療収入のみで初めて20億円（20億6,041万641円）の大台に乗せることができた。平成26年度の初診患者数は、2万5,266人、一日平均87.12人で対前年度比99.91%であった。

また、外来・入院延べ患者数は、26万5,188人であり、主な地域別内訳は大阪府23万875人、兵庫県1万5,254人、奈良県9,758人、京都府6,008人、和歌山県993人であり、その他滋賀県、三重県、東京都、北海道、沖縄県などである。

平成25年5月11日から始まった土曜日診療については、初診・再診合わせた平成26年度延べ患者は、2,943人で一日平均61.31人であった。

2. 先進医療の推進

先進医療とは、新しい医療技術の出現・患者ニーズの多様化等に対応するために、健康保険の診療で認められている一般の医療の水準を超えた最新の先進技術として、厚生労働大臣から承認された医療行為である。当院では、平成21年6月1日より「歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法」、平成25年1月1日より「有床義歯補綴治療における総合的咬合・咀嚼機能検査」及び平成26年9月1日より「金属代替材料としてグラスファイバーで補強された高強度のコンポジットレジンを用いた三ユニットブリッジ治療」を実施している。

3. 歯科医師の派遣

以前から実施している、社会福祉法人阪神福祉事業団センター診療所、日本放送協会（大阪放送局）へ派遣した。

4. 歯科医師臨床研修の概要

修了者は、プログラムS（単独型）22名、プログラムC（複合型）68名の合計90名であった。なお、12月よりプログラムS（単独型）で、研修歯科医1名を追加で受入し平成27年度4月の修了を予定している。研修歯科医受入施設は、43施設であった。臨床研修費等補助金は、前年度に比べ2,797万円減の9,375万円であった。なお、減額の主要因は、研修歯科医が前年度より26名減じたためである。

平成27年1月に枚方市健康医療キャラバンに関わる学校歯科保健活動を枚方市立高陵小学校において、研修歯科医を派遣し実施した。

第10回大阪歯科大学附属病院歯科医師臨床研修指導歯科医講習会を平成27年1月に開催、一般公募した臨床経験7年以上の歯科医師を含む28名が受講し修了証を交付した。また、指導歯科医の資質向上のための講習会を、管理型及び協力型臨床研修施設の指導歯科医を対象に、平成27年1月、2月に開催した。

5. 病診連携講演会（懇談会）

病診連携、病病連携の推進を目的として開催している病診連携講演会（懇談会）は平成26年度で12回目を数え、平成27年2月に開催された。

なお、平成26年度に医療機関から紹介いただいた患者数は9,421人になっており、紹介率は37.3%（前年度36.2%）となった。

6. 地域医療連携について

地域の診療所の先生方への支援としてCT、MRI、歯科用CT、検体検査および病理組織検査の検査支援体制を整備しており、多くの先生方との共同治療に利用されている。

また、当院と隣接する「国家公務員共済組合連合会 大手前病院」との医療連携に関しては、平成17年6月に協力医療機関相互診療委託契約を締結し、「大阪歯科大学附属病院・大手前病院打ち合わせ会」を立ち上げ、平成26年度も3か月に1回の割合で定期的に相互の病院で、それぞれの副病院長、医員、看護師長、歯科衛生士長、事務職員等が出席し、医療連携の推進、情報交換等を行った。当院より訪問歯科診療が継続実施されており、年間約70名の入院患者の治療や口腔ケアを施行している。また、金属アレルギー患者の口腔内金属の成分分析依頼にも対応している。

一方、当院からは口腔癌の放射線治療（約15名/年）、全身疾患を有する患者様のコンサルタントや入院患者様の救急対応などを依頼し、密接な地域医療連携を構築している。

平成25年度より新たに発足した「大手前病院地域医療支援病院運営委員会」に、委員として本院副院長が参加し、運営に参画している。

施設基準「感染防止対策加算2」の算定に係る連携については、合同カンファレンスの実施及び院内感染防止対策状況についてのラウンドを相互に行い、院内感染防止の向上に努めている。

関西医科大学（天満橋総合クリニック）とは、従来から特殊検査により提携を行っている。

7. 医療安全講習会、院内感染対策講習会等

医療安全、院内感染防止等に関する取り組みは、昨年度に引き続き講習会を開催し、多数の教職員が参加した。

「医療安全講習会」11回開催

「院内感染対策講習会」10回開催

「医薬品安全管理講習会」5回開催

「医療機器安全管理講習会」4回開催

8. 医療機器の更新について

眼科において眼科手術装置（1,755万5,600円）、耳鼻咽喉科においてオリンパスメディカルシステム カメラヘッド・ライトケーブル・LGアダプター（199万5,840円）、中央画像検査部においてデジタルX線画像診断システム FCR（1,539万0,000円）の更新が行われた。また、歯周治療科、高齢者歯科及び補綴咬合治療科のチェアユニット6台（1,698万3,015円）の更新も行った。

口腔外科においてはチェアユニット（ファントム付）11台（3,534万5,613円）が、文部科学省研究設備整備費等補助金により半額補助を受け更新した。

9. 病院情報システムの更新について

平成28年度からスタートする新病院情報システム（歯科（診療）システム系医科（診療）系システム系、医療事務システム系から構成される基幹システム）について、平成26年度に複数の導入業者による見積書提出を受け、設定に関する準備を進め、慎重に検討を行った結果、メディア株の新システムを導入することに決定した。

10. 人事関係諸規程の制定

附属病院において、診療業務を主として行う任期付医員（医師及び歯科医師）の労働条件を定めた就業規則と、医員の評価を行う医員診療評価規程とを新たに制定した。

V. 歯科技工士・歯科衛生士両専門学校の改革

理事会傘下の経営改善委員会において、専門学校の運営改善に向けて検討を行った。

1. 歯科技工士専門学校

生徒募集については、高校への訪問、ホームページや学校独自に広報誌を作成し、実際に歯科技工の現場で働く卒業生の声を掲載するなど積極的に広報活動を行った結果、平成27年度新入生は前年度より増加した。

「義歯専攻コース」、「CAD/CAM専攻コース」、「インプラント専攻コース」の3コースを設け、2年制の特色ある医療専門職教育を行い、平成26年度歯科技工士国家試験の合格率は100%であった。

卒業後の進路については、歯科医院、歯科技工所への就職、本校専攻科への進学などである。

2. 歯科衛生士専門学校

生徒募集については、高校への訪問、ホームページなどにより広報活動を行い、平成27年度新入生は前年度より増加した。また平成27年4月から教育訓練給付制度（専門実践教育）の指定を受けることとなり、社会人受験生に対する門戸を拡げた。

3年制の充実したカリキュラムにより、特色ある医療専門職教育を行い、歯科衛生士国家試験の合格率は3年制に移行後100%を維持し続けている。

高齢者社会に対応できる有為な人材を多く輩出していることから、求人件数も20倍となり、一般開業医、企業、病院など高い就職率を誇っている。

大学学部に科目等履修生制度が新設され、国家試験合格後に両専門学校卒業生がこの制度により単位を取得し、大学評価・学位授与機構に申請・審査を受け「学士」の学位が与えられる道が開かれた。さらに、現在認可に向けて準備中の大学院修士課程への進学もキャリアパスに繋がることとなる。

[附属資料]

1. 平成 26 年度学生数 () は女子 (平成 26 年 5 月 1 日現在)

大学	第 1 学年	1 4 3 (6 8)	大学院	第 1 学年	1 7 (4)
	第 2 学年	1 5 0 (5 4)		第 2 学年	2 5 (9)
	第 3 学年	1 1 5 (4 7)		第 3 学年	1 9 (1 1)
	第 4 学年	1 5 9 (7 0)		第 4 学年	<u>2 9 (1 3)</u>
	第 5 学年	1 0 5 (4 7)			9 0 (3 7)
	第 6 学年	<u>1 6 8 (5 8)</u>			
		8 4 0 (3 4 4)			

歯科技工士専門学校	1 年	1 0 (4)	専攻科 1 年	4 (0)
	2 年	<u>1 4 (5)</u>	専攻科 2 年	<u>1 1 (1)</u>
		2 4 (9)		1 5 (1)

歯科衛生士専門学校	1 年	4 5 (4 5)
	2 年	4 8 (4 8)
	3 年	<u>5 3 (5 3)</u>
		1 4 6 (1 4 6)

2. 第 108 回歯科医師国家試験の結果 平成 27 年 3 月 18 日合格発表

	(総 数)			(新 卒)			(既 卒)		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	151	96	63.6	93	72	77.4	58	24	41.4
全国	3,138	2,003	63.8	1,995	1,457	73.0	1,143	546	47.8

3. 平成 27 年度入学試験状況

	(志願者)	(合格者)	(入学者)
[大学] 推薦入試	5 0	3 3	} 1 2 8
一般入試 (前期)	2 5 3	7 8	
一般入試 (後期)	7 8	1 5	
センター (前期)	9 5	1 0	
センター (後期)	1 4	3	
編入 学 (前期)	1 1	8	
編入 学 (後期)	2	2	
[大学院] 一般入試 (一次)	7	7	} 2 4
一般入試 (二次)	1 5	1 5	
外国人留学生特別選抜	2	2	
[歯科技工士専門学校]			
歯科技工士学科	1 3	1 3	1 2
編入 学	2	2	2
専攻科	5	5	5
[歯科衛生士専門学校]	7 8	5 0	5 0

4. 平成 25 年度会計実査 平成 26 年 4 月 3 日 (木)
5. 大学・大学院入学式 平成 26 年 4 月 4 日 (金) 午前 10 時 (於：楠葉学舎)
6. 平成 26 年度大学新入生研修
平成 26 年 4 月 4 日 (金) 午後 2 時 30 分 (於：楠葉学舎)
4 月 7 日 (月) 午前 9 時 (於：牧野学舎)
4 月 8 日 (火) 午前 9 時 (於：楠葉学舎)
7. 平成 26 年度 F D セミナー (本文参照)
8. 平成 25 年度監事監査 平成 26 年 5 月 12 日、13 日 (於：楠葉学舎)
9. 解剖体慰霊祭 平成 26 年 5 月 16 日 (金) 午後 2 時 (於：四天王寺)
10. オープンキャンパス (於：楠葉学舎)
 - ・第 1 回 平成 26 年 6 月 1 日 (日) 48 名参加 (うち、学生 25 名)
 - ・第 2 回 平成 26 年 7 月 21 日 (月・祝) 173 名参加 (うち、学生 79 名)
 - ・第 3 回 平成 26 年 8 月 24 日 (日) 129 名参加 (うち、学生 58 名)
 - ・第 4 回 平成 26 年 11 月 1 日 (土) 62 名参加 (うち、学生 33 名)
11. 大学父兄会・共済会総会 (於：楠葉学舎)
平成 26 年 6 月 28 日 (土) 午後 1 時 父兄出席者数 265 名
12. 受験相談及び病院見学会 (於：天満橋学舎)
平成 26 年 8 月 1 日 (金) 33 名参加 (うち、学生 15 名)
13. 第 46 回全日本歯科学学生総合体育大会 (当番校：日本歯科大学新潟生命歯学部)
平成 26 年 8 月 1 日 (金) ~ 12 日 (火) 総合第 3 位
14. 平成 26 年度薬物乱用防止講演会
平成 26 年 9 月 4 日 (木) 午前 9 時 (於：楠葉学舎)
講師 大阪府警察本部刑事部薬物対策課 小川 浩一 警部
対象者：第 1 学年、140 名出席
15. 第 22 回公開講座
 - ・メインテーマ 「超高齢化社会への歯科の取り組み」

- ・日程 天満橋講座 平成 26 年 9 月 13 日（土）、20 日（土）
受講者延べ 365 名（於：100 周年記念館）
- 枚方講座 平成 27 年 2 月 21 日（土）、28 日（土）
受講者延べ 441 名（於：楠葉学舎）
（時間はいずれも午前 10 時～正午）

16. 第 6 学年父兄懇談会（於：100 周年記念館）
平成 26 年 9 月 27 日（土）午後 1 時 60 名出席
17. 平成 26 年度女性被害防止講演会
平成 26 年 10 月 6 日（月）午後 3 時 30 分（於：楠葉学舎）
講師 大阪府警 2 名・枚方署 1 名、1 年女子学生 59 名出席
18. 平成 26 年度解剖体遺骨返還式（於：楠葉学舎）
平成 26 年 10 月 10 日（月）午後 2 時
19. 平成 26 年度地方父兄会（奈良県）（於：ホテル日航奈良）
平成 26 年 10 月 19 日（日）午前 10 時 学生 17 名の保護者出席
20. 平成 26 年度大学祭（テーマ：NO BORDER）
 - ・体育祭 平成 26 年 10 月 25 日（土）（於：牧野学舎）
 - ・文化祭 平成 26 年 11 月 1 日（土）、2 日（日）（於：楠葉学舎）
21. 平成 26 年度自衛消防訓練

楠葉学舎	平成 26 年 11 月 14 日（金）
牧野学舎	平成 26 年 12 月 9 日（火）
天満橋学舎	平成 26 年 11 月 25 日（火）
22. 実験動物慰霊祭 平成 26 年 11 月 21 日（金）午後 1 時 30 分（於：楠葉学舎）
23. 平成 26 年度全学教職員忘年慰労会 平成 26 年 12 月 26 日（於：天満橋学舎）
24. 平成 27 年新年互礼会 平成 27 年 1 月 5 日（於：楠葉学舎）
25. 教授退職記念講演会
平成 27 年 2 月 15 日（日）午前 10 時（於：100 周年記念館）
神原主任教授（10：10～）、諏訪主任教授（10：55～）、岩井主任教授（11：40～）、
川合主任教授（13：15～）、前田専任教授（14：00～）

26. 平成 26 年度共用試験歯学系 CBT 並びに OSCE
 ・CBT 平成 27 年 2 月 27 日（金）午前 9 時 30 分（於：楠葉学舎）
 ・OSCE 平成 27 年 3 月 22 日（日）午前 9 時（於：天満橋学舎）
27. 平成 26 年度卒業式並びに大学院学位認証式
 平成 27 年 3 月 6 日（金）午前 10 時（於：楠葉学舎）
28. 平成 26 年度歯科医師臨床研修修了証授与式
 平成 27 年 3 月 24 日（火）午後 2 時 30 分（於：天満橋学舎）
29. 口腔インプラント学講座の新設
30. 大学特待生の採用
 2 年 2 名・3 年 2 名・4 年 2 名・5 年 1 名・6 年 2 名、授業料 100 万円免除
31. 大学学内奨学生選考
 2 名の学生に対して総額 1,750,000 円の奨学金を貸与
32. 平成 26 年度 SCRP（スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム）日
 本代表選抜大会において 5 年生・三上 優さんが臨床部門第 2 位に入賞
 ・研究テーマ
 「睡眠中のアロマセラピーは SIgA の分泌促進と唾液中細菌数の減少を促進する」
33. 平成 27 年度臨床研修歯科医の募集定員
 単独型研修方式 40 名、複合型研修方式 120 名
34. 学位授与
 学位記番号 甲第 740 号～767 号 28 名に学位記授与
 学位記番号 乙第 1587 号～1593 号 7 名に学位記授与
35. 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 大学連携協定締結
 （平成 26 年 6 月 23 日付）
36. 平成 26 年度法人理事会・法人評議員会・主任教授会・教授会・大学院研究科会議
 1) 法人理事会 16 回開催
 （平成 26 年 4 月 3 日(2 回)、4 月 24 日、5 月 29 日(2 回)、6 月 26 日、
 7 月 24 日、8 月 28 日、9 月 30 日、10 月 23 日、11 月 27 日、12 月 26 日、

平成 27 年 1 月 29 日、2 月 26 日、3 月 26 日(2 回))

2) 法人評議員会 3 回開催

(平成 26 年 4 月 3 日、5 月 29 日、平成 27 年 3 月 26 日)

3) 主任教授会 26 回開催

(平成 26 年 4 月 9 日、4 月 23 日、5 月 14 日、5 月 28 日、6 月 11 日、
7 月 9 日、7 月 23 日、8 月 13 日、9 月 10 日、9 月 19 日、10 月 8 日、
10 月 20 日、10 月 27 日、11 月 12 日、11 月 26 日、12 月 3 日、
12 月 10 日、平成 27 年 1 月 15 日、1 月 27 日、2 月 4 日、2 月 12 日、
2 月 18 日、2 月 25 日、3 月 4 日、3 月 11 日、3 月 27 日)

4) 教授会 2 回開催

(平成 26 年 4 月 9 日、平成 27 年 3 月 27 日)

5) 大学院研究科会議 14 回開催

(平成 26 年 4 月 23 日、5 月 28 日、6 月 25 日、7 月 23 日、8 月 27 日、
9 月 19 日、10 月 8 日、10 月 20 日、11 月 26 日、12 月 24 日、
平成 27 年 1 月 28 日、2 月 12 日、2 月 25 日、3 月 25 日)

37. 本学関係 褒章・叙勲の受章者等

1) 褒章 大学 22 回 黒住 正三 岡山県 藍綬褒章

2) 叙勲 専門 30 回 桐山 浩 岐阜県 旭日双光章 共 15 名

3) 平成 26 年度文部科学省医学教育等関係業務功労者表彰

附属病院 歯科衛生士長 高田橋 美幸、歯科技工士長 西村 元彦

38. 川添理事長・学長

(公社)医療系大学間共用試験実施評価機構理事に再任

(期間：平成 26 年 6 月 5 日～平成 28 年 6 月 30 日)

(一財) 歯科医療振興財団理事長に就任 (平成 26 年 6 月 30 日付)

文部科学省 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議委員に就任

(任期：平成 26 年 7 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

厚生労働省 歯科医師の資質向上等に関する検討会構成員に就任

39. 教職員数 (平成 27 年 3 月 1 日現在：365 名)

1) 大学 349 名

教員数 185 名

学長 1 名、主任教授 27 名、専任教授 7 名、准教授 26 名、講師 69 名、
助教 53 名、病院教授 1 名、病院助教 1 名

職員数 165 名

事務・技術 75 名、医療 89 名、労務 1 名

- 2) 歯科技工士専門学校 7名
教員5名、事務2名
- 3) 歯科衛生士専門学校 8名
教員6名、事務2名

40. 人事

1. 法人関係

1) 法人役員就任

理事長	川添 堯彬
常務理事 (総務兼財務担当)	下村 錢三郎
常務理事 (教学兼財務担当)	田中 昭男
常務理事 (教学兼人事担当)	諏訪 文彦
理事 (教学兼人事担当)	覚道 健治
理事 (総務兼人事担当)	三谷 卓
理事 (調査担当)	岡 邦恭
理事 (調査担当)	橋本 猛伸
理事 (総務兼財務担当)	藤野 明
理事 (財務担当)	前田 眞治
監事	本井 文夫
監事	古川 壽男

2) 評議員就任

池尾 隆、生駒 等、今井 徳子、岩井 康智、上田 雅俊
 大浦 清、大坂 尚史、太田 謙司、岡 邦恭、岡本 学
 恩田 信雄、加藤 信次、川合進二郎、河合 正治、川添 堯彬
 川野 敏樹、神原 正樹、窪 盛偉、小正 裕、酒井 昭則
 佐ノ木幸夫、清水谷公成、下村錢三郎、城村 幸治、末瀬 一彦
 鈴木 實、玉置 敏夫、中谷 讓二、西川 泰央、林 秀彦
 福島 久典、藤井 征、北條 博一、松田 毅、三谷 卓
 森田 章介、山科 透、山本 一世、吉本 一馬、和手 甚京

3) 顧問の委嘱 上田 雅俊

4) 教授定年退職に伴う理事退任 諏訪 文彦

5) 教授定年退職等に伴う評議員退任 神原 正樹 共5名

2. 名誉教授称号授与 林 宏行、小谷 順一郎、武田 昭二

3. 退職

1) 定年退職 口腔衛生学講座 主任教授 神原 正樹 共15名

2) 依願退職 薬理学講座 講師 西浦 弘志 共11名

3) 任期付職員期間満了退職 図書課 事務職員 平田 悠樹

4) 再雇用契約満了退職 同窓会事務局 事務職員 三木 慶一

4. 昇任

- 1) 主任教授 内科学講座 准教授 大久保 直 共2名
- 2) 准教授 口腔外科学第二講座 講師 大西 祐一 共3名
- 3) 定年退職に伴う准教授特別昇任 口腔治療学講座 講師 好川 正孝
- 4) 講師 化学教室 助教 牧田 佳真 共11名
- 5) 定年退職に伴う講師特別昇任 口腔外科学第一講座 助教 田伏 信
- 6) 専門学校教員 歯科技工士専門学校 教務主任 森川 良一 共2名
- 7) 職員 法人事務局長 齊藤 広志 共6名

5. 任用

- 1) 主任教授 口腔治療学講座 博士(歯学) 前田 博史 共3名
- 2) 准教授 薬理学講座 歯学博士 天野 均
- 3) 講師 物理学教室 博士(工学) 松原 英一 共5名
- 4) 助教 歯科保存学講座 博士(歯学) 小正 玲子 共8名
- 5) 大学院教員
大学院教授 諏訪 文彦 共20名、大学院准教授 竹村 明道 共22名
大学院講師 上村 守 共26名、大学院助教 上田 甲寅 共24名
- 6) 専門学校校長
歯科技工士専門学校 校長 末瀬 一彦
歯科衛生士専門学校 校長 小出 武
- 7) 看護師 附属病院 岩谷 亜希子
- 8) 任期付職員の正規職員登用 教務学生課 課長 中山 勝美 共4名
- 9) 任期付職員新規採用 教務学生課 主任 中谷 悟 共5名
- 10) 任期付医療職員新規採用 附属病院 薬剤師 安藤 薫
6. 任期制教員契約更新 歯科保存学講座 助教 竹内 撰 共2名
7. リサーチ・アシスタント採用 歯周病学 山脇 勲 共6名
8. 所属異動 大学事務局長 亀井 崇 共4名
9. 兼務 病院事務部長 齊藤 広志
10. 定年退職後再雇用 総務課人権担当 事務職員 野中 登貴男 共2名
11. 定年退職後再々雇用 同窓会事務局 事務職員 三木 慶一

12. 委嘱

1) 大学役職者(平成26年4月1日付)

副学長	諏訪 文彦
副学長	小正 裕
総務部長	小正 裕
教務部長	田中 昭男
学生部長	田中 昌博

- | | |
|------------|--------|
| 図書館長 | 川合 進二郎 |
| 附属病院病院長 | 覚道 健治 |
| 大学院研究科科长 | 西川 泰央 |
| 中央歯学研究所所長 | 清水谷 公成 |
| 教育情報センター所長 | 佐ノ木 幸夫 |
| 国際交流部長 | 岡崎 定司 |
| 附属病院副病院長 | 森田 章介 |
| 附属病院副病院長 | 山本 一世 |
- 2) 名誉客員教授 岡山大学 名誉教授 山下 敦
- 3) 客員教授 大阪歯科大学附属病院 元病院教授 北條 博一 共5名
- 4) Visiting Professor
 韓国慶熙大学校歯科大学 主任教授 Young-Guk Park 共8名
- 5) 平成26年度講師(非常勤) 解剖学講座 清水 孝治 共411名
 平成26年度大学院講師(非常勤) 解剖学 江原 大輔 共55名
 (平成26年4月1日付)
- 6) 臨床教授 口腔インプラント科 江藤 隆徳 共2名
- 7) 嘱託 梅垣麻酔科クリニック 院長(医師) 梅垣 裕 共17名
- 8) 医科当直医師
 関西医科大学附属滝井病院内科 医師 玉置 岳史 共11名
- 9) 病院医員 64名
- 10) 臨床講師 55名
- 11) ティーチング・アシスタント 口腔外科学第一 石川 敬彬 共12名
- 12) 平成26年度ポストドクトラルフェロー
 口腔外科学第二 渡辺 昌広 共2名
- 13) 学生相談室カウンセラー 臨床心理士 関 珠希 共3名
- 14) 医務室嘱託医師 大阪大学医学部 助教(医師) 木田 博
- 15) 各種委員会委員長
- (1) 大学関係
- | | |
|-----------------|-------|
| 総務部委員会委員長 | 小正 裕 |
| 教務部委員会委員長 | 田中 昭男 |
| 第6学年教務部委員会委員長 | 田中 昭男 |
| 既卒者クラス教務部委員会委員長 | 田中 昭男 |
| 廃棄物処理委員会委員長 | 小正 裕 |
| 図書館運営委員会委員長 | 川合進二郎 |
| 図書資料選択委員会委員長 | 川合進二郎 |
| 学生部委員会委員長 | 田中 昌博 |
| 学内食堂管理運営委員会委員長 | 田中 昌博 |

教育情報センター管理運営委員会委員長	佐ノ木幸夫
健康管理委員会委員長	覚道 健治
楠葉学舎衛生委員会委員長	川合進二郎
天満橋附属病院衛生委員会委員長	清水谷公成
国際交流部委員会委員長	岡崎 定司
学術研究奨励助成金交付審査委員会委員長	田中 昭男
兼共同研究助成審査委員会委員長	諏訪 文彦
カリキュラム委員会委員長	西川 泰央
共用歯学C B T委員会委員長	山本 一世
共用歯学O S C E実行委員会委員長	松本 尚之
ブラッシュアップ委員会委員長	田中 昭男
F D委員会委員長	田中 昭男
入試委員会委員長	有田 憲司
公開講座委員会委員長	覚道 健治
医の倫理委員会委員長	川合進二郎
組換えDNA実験安全委員会委員長	池尾 隆
動物実験委員会委員長	梅田 誠
バイオセーフティー委員会委員長	川添 堯彬
セクシュアル・ハラスメント防止委員会委員長	覚道 健治
知的財産委員会委員長	川添 堯彬
教員評価委員会委員長	西川 泰央
大学院委員会委員長	清水谷公成
中央歯学研究所委員会委員長	田中 昭男
学生基礎実習運営連絡検討委員会委員長	

(2) 法人関係

財務企画委員会委員長	川添 堯彬
財務企画委員会病院の運営に関する事項部会部会長	覚道 健治
財務企画委員会牧野学舎将来計画作業部会部会長	下村錢三郎
財務企画委員会給与部会部会長	三谷 卓
財務企画委員会経営部会部会長	下村錢三郎
退職資金管理運営委員会委員長	三谷 卓
業者登録選考委員会委員長	下村錢三郎
学術研究奨励基金管理運営委員会委員長	下村錢三郎
環境管理委員会委員長	覚道 健治
枚方資料センター管理運営委員会委員長	覚道 健治
予算委員会委員長	下村錢三郎
人事委員会委員長	三谷 卓

自己点検・評価委員会委員長	川添 堯彬
ODUウェルネス・ホール管理運営委員会委員長	小正 裕
広報委員会委員長	川添 堯彬
人権啓発推進委員会委員長	川添 堯彬
個人情報保護委員会委員長	川添 堯彬
個人情報保護委員会大学部門委員会委員長	諏訪 文彦
個人情報保護委員会病院部門委員会委員長	覚道 健治
個人情報保護委員会事務部門委員会委員長	牧谷 弘幸
大阪歯科大学附属病院財務改善検討委員会委員長	下村錢三郎
資産運用検討委員会委員長	下村錢三郎
学校法人大阪歯科大学利益相反検討委員会委員長	覚道 健治
専門学校の大学・短大化に関する検討委員会委員長	三谷 卓
附属病院・専門学校経営改善委員会委員長	川添 堯彬
学校法人大阪歯科大学省エネルギー推進委員会委員長	下村錢三郎

16) 学年指導教授・助言教員・特別アドバイザー (平成26年4月1日現在)

学年指導教授 1年 藤原 眞一、2年 王 宝禮、3年 西川 泰央
 4年 有田 憲司、5年 山本 一世、6年 梅田 誠
 既卒者 田中 昌博

指導教授特別補佐 (1～6年及び既卒者) 田中 昭男

教育アドバイザー 1～6年 王 宝禮 共2名

助言教員 1年 李 嘉永 共8名、2年 竹村 明道 共8名

3年 乾 千珠子 共8名、4年 岩田 有弘 共8名

特別アドバイザー 5年 谷本 啓彰 共12名、6年 戸田 伊紀 共23名

既卒者 小出 武 共3名

17) 平成26年度学友会会長 主任教授 松本 尚之

41. 学外活動

- 1) 教授海外視察 欠損歯列補綴咬合学講座 主任教授 岡崎 定司
- 2) 教員海外研修 歯科矯正学講座 講師 西浦 亜紀 共2件
- 3) 教員海外出張 歯科医学教育開発室 専任教授 王 宝禮 共82件
- 4) 共同研究員受入

北京大学口腔医学院 児童口腔医学/問診部児童口腔科

病院医師 鄭 佳佳

受入講座：小児歯科学講座

期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日 共4件

5) 国際交流

- (1) 中国5大学との共同研究

・受入

南方医科大学口腔医学院 1名 (期間：平成26年11月27日～12月18日)

・派遣

上海交通大学口腔医学院 (期間：平成26年11月20日～25日)

歯周病学講座 梅田主任教授、田口准教授

口腔インプラント科 馬場専任教授、上村助教

(2) 海外協定校との学生交流

・受入

コロンビア大学 学生2名 (期間：平成26年4月22日～28日)

上海交通大学 学生5名、教員1名 (期間：平成26年7月27日～8月1日)

南方医科大学 学生5名、教員1名 (期間：平成26年7月27日～8月2日)

台北医学大学 学生4名 (期間：平成26年7月27日～8月2日)

シドニー大学 学生4名 (期間：平成26年11月24日～12月3日)

・派遣

四川大学華西口腔医学院インターナショナルサマーキャンプ 学生2名(5年)

引率教員：益野講師 (期間：平成26年6月29日～7月11日)

上海交通大学口腔医学院 学生2名 (3年)

引率教員：篠永講師 (期間：平成26年7月19日～25日)

シドニー大学歯学部 学生6名 (3年4名、4年2名)

引率教員：岡村講師 (期間：平成26年8月16日～25日)

コロンビア大学歯学部 学生8名 (5年)

引率教員：益野准教授、本田講師 (期間：平成27年3月7日～17日)

42. 補助金・助成金

1) 平成26年度大阪歯科大学学術研究奨励助成金交付 (13件)

助成金交付額 3,000,000円

2) 平成26年度大阪歯科大学学術研究奨励資金 4,200,000円

(内1,200,000円は、日本私立学校振興・共済事業団より平成26年度学術研究振興資金として交付)

研究課題「iPS細胞を用いた広域顎口腔組織欠損再生に向けた基礎的研究」

3) 平成26年度科学研究費補助金交付 (文部科学省) (本文参照)

4) 平成26年度私立大学等経常費補助金交付額 352,139,000円

5) 平成25年度私立大学等研究設備整備費等補助金 (私立大学等研究設備等整備費)

(26年度申請) 交付額15,848,000円

「BDFACSVerse フローサイトメーター3 レーザー8 カラーモデル一式」

6) 平成26年度臨床研修費等補助金交付額 93,756,000円

7) 国際交流助成

歯科矯正学講座 助教 居波 薫 共30件に対し6,448,714円の助成

8) 寄贈

大阪歯科大学第22回卒業生(甲寅会) 300,000円 共2件

43. 諸規程

- 1) 大阪歯科大学学則(一部改正)
- 2) 共同研究員受入に係る研究料に関する申し合わせ(一部改正)
- 3) 大阪歯科大学教員評価実施規程(一部改正)
- 4) 大阪歯科大学カリキュラム委員会規程(一部改正)
- 5) 名誉教授称号授与に関する規程(一部改正)
(以上 平成26年4月1日付)
- 6) 大阪歯科大学附属病院病院医員就業規則(一部改正)
(平成26年4月1日付、平成27年3月26日付)
- 7) 請負契約規程(一部改正) (平成26年5月29日付)
- 8) 任期制教員の再任用基準に関する申し合せ(一部改正)
- 9) 教員候補者資格審査に関する申し合わせ(一部改正)
- 10) 留学専攻生の授業料減免に関する内規(一部改正)
(以上 平成26年7月24日付)
- 11) 大阪歯科大学大学院歯学研究科専攻科教員任用規程(一部改正)
- 12) 大阪歯科大学教員海外研修規程(一部改正)
(以上 平成26年8月28日付)
- 13) 大阪歯科大学図書館規程(一部改正)
- 14) 図書資料選択委員会に関する細則(一部改正)
- 15) 図書館の利用に関する細則(一部改正)
- 16) 外部資金による研究補助者の労働者派遣取扱いに関する規程(施行)
(以上 平成26年9月30日付)
- 17) 学生基礎実習運営連絡検討委員会規程(施行)
(平成26年10月1日付)
- 18) 学校法人大阪歯科大学自己点検・評価委員会規程(施行)
- 19) 大阪歯科大学大学院歯学研究科教員候補者審査選出規程(一部改正)
- 20) 臨床実習連絡委員会規程(一部改正)
(以上 平成26年10月23日付)
- 21) 大阪歯科大学学内施設使用規程(一部改正)
(平成26年11月27日付)
- 22) ハラスメントの防止等に関する規程(施行)
- 23) ハラスメント相談窓口に関する規則(施行)
- 24) ハラスメントの防止等に関するガイドライン(施行)
(以上 平成26年12月26日付)

- 25) 学校法人大阪歯科大学事務組織及び事務分掌規程（一部改正）
- 26) 学校法人大阪歯科大学事務組織表（一部改正）
(以上 平成 27 年 1 月 1 日付)
- 27) 学校法人大阪歯科大学教員の定員等に関する規程（一部改正）
(平成 27 年 1 月 29 日付)
- 28) 大阪歯科大学学業成績評価に関する規程（施行）
- 29) 学校法人大阪歯科大学任期付職員就業規則（一部改正）
- 30) 学校法人大阪歯科大学契約職員就業規則（一部改正）
- 31) 大阪歯科大学附属病院臨床研修歯科医就業規則（一部改正）
- 32) 大阪歯科大学附属病院病院医員就業規則（一部改正）
- 33) 学校法人大阪歯科大学医員就業規則（施行）
- 34) 大阪歯科大学附属病院医員診療評価規程（施行）
- 35) 学校法人大阪歯科大学給与規程（一部改正）
(以上 平成 27 年 3 月 26 日付)